

読賣新聞

2009年(平成21年)

7月5日 日曜日

病院の力 実力

神奈川編 20

医療機関ごとの治療実績を伝える「病院の実力」。

今月は心臓や血管の病気がテーマだ。2008年4月の掲載に続く心臓の病気では、心筋梗塞や狭心症に対する冠動脈バイパス手術とカテーテル治療に加え、心臓弁膜症の手術件数を掲載した。

病院の実力「心臓・血管の病気」
医療機関別2008年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	心筋梗塞・狭心症		弁膜症手術	大動脈瘤	
	冠動脈バイパス手術	カテーテル治療		人工血管置換術	ステントグラフト挿入術
大和成和	278	588	274	27	0
葉山ハートセ	98	173	133	-	-
横浜市立大市民総合医療セ	57	433	38	38	10
平塚共済	55	312	22	10	0
済生会横浜市東部	50	1159	24	32	2
東海大	45	475	34	56	6
北里大	40	395	48	-	-
済生会横浜市南部	38	407	19	9	0
小田原循環器	37	259	27	6	0
昭和大藤が丘	33	321	21	24	1
横浜市立みなと赤十字	31	231	28	18	0
横浜南共済	28	298	16	11	4
県立循環器呼吸器病セ	22	386	18	15	1
横浜栄共済	18	299	23	21	0
横浜労災	15	602	32	22	1
市立川崎	15	153	34	9	14
茅ヶ崎徳洲会総合	14	327	11	13	0
藤沢市民	13	320	3	3	0
横浜市立大	8	150	21	10	0
川崎社会保険	7	118	15	-	-
川崎幸	5	450	7	53	15
湘南鎌倉総合	-	1037	-	27	27
昭和大横浜市北部	-	423	-	-	-

※「セ」はセンター。「-」は未回答。

心臓・血管の病気

心筋梗塞や狭心症は、心臓の冠動脈が詰まったり狭くなったりする病気だ。バイパス手術は、胸部などから取った血管を移植する。また、カテーテル治療は、足の付け根などの血管から細い管を通し、冠動脈を広げる。血液の逆流を防ぐ弁が正常に働かなくなる弁膜症の手術には、人工弁を入れる弁置換術と弁を縫い合わせる弁形成術があり、表には合計の患者数を示した。

また今回、地域版では初め、腹部の大動脈瘤の治療件数を掲載した。大動脈瘤は体の中心を通る大動脈の一部が、加齢などが原因で弱くなり瘤状に膨らんだもので、心臓近く(胸部)にできるものと、おへそのあたり(腹部)にできる場合がある。症状はあまりなく、健診などで偶然見つかることが多い。瘤が5センチ程度以上だと破裂の危険性が高まるため、治療の対象となる。

破裂予防の大動脈瘤手術

大動脈の瘤のある部分を切り取り、代わりに人工血管を縫いつける人工血管置換術を一般に行う。今回の調査で、9割近くが予防的な手術、1割強が破裂後の緊急手術だった。また、足の付け根からカテーテルを通し、瘤のある部分の血管に金属製の筒(ステントグラフト)を挿入する治療が2年前に保険適用され、回答施設のうち約4分の1で行われていた。

食生活、喫煙習慣見直して

平塚共済病院

診療部長

梅沢 滋男氏



狭心症や心筋梗塞に対する内科的な基本治療は、患者への負担が少ないカテーテル治療だ。全身麻酔をかける必要はなく、治療時間も1時間程度で済む。ただ、再発率が低いバイパス手術の方が長期的な生存率が高い、と一般的に言われている。

その選択の判断は、患者を最初に診断する内科医

調査で、9割近くが予防的な手術、1割強が破裂後の緊急手術だった。また、足の付け根からカテーテルを通し、瘤のある部分の血管に金属製の筒(ステントグラフト)を挿入する治療が2年前に保険適用され、回答施設のうち約4分の1で行われていた。

早期発見が命を救う

同病院 心臓血管外科部長

高橋 政夫氏



バイパス手術は、人工心肺装置を用いて心臓を止めて行う手術と、心臓を動かしたままで行う「オフポンプ手術」に分かれる。心臓を止めるリスクがないオフポンプ手術は国内では十数年前から始まり、かなり普及しているが、技術的に難しい場合もある。県内では実績を積んだ病院が多く、当院ではオフポンプ手術を100%行っている。

大事なのは、院内で内科と外科が患者の治療法について十分に相談できる体制にあること。両科がうまく連携できていると、患者にもプラスになる。

近年、高齢者に加えて40歳代の若い方にも心筋梗塞が目立ち始めてきた。そういう人は太り気味で、かなりのヘビースモーカー。食生活や喫煙を見直し、発病予防につなげてほしい。

大動脈瘤は早期発見が極めて重要。腹部にできた瘤は比較的、自分でも発見しやすい。寝て腹の上を触ってみて、ドクンドクンという感じがしたら注意してほしい。

心臓の病気は、ぎりぎりまで症状が表れにくく、いったん症状が出ると、死につながってしまう。早めの治療ができれば、元通りの生活を送れる。症状や予兆がある方は、なるべく早く総合病院で検査を受けてもらいたい。

※全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は8月2日「精神科」の予定です。